

# ☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第10号 2021年1月1日(金)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



## 2021年、あけましておめでとうございます



新しい年が始まりました！今年の干支は丑(うし)です。

「丑」と言う字は主に干支・時刻・方角を表すときに使われますが、元来中国の干支は植物の循環を意味しており、二番目の段階として、発芽直前に種の中で芽が伸びて絡まりあう様子を表す「紐」をあてたそうです。後にその段階を覚えやすいように、身近な動物に置き換えたとき、「丑」は「牛」と読まれるようになりました。

ところで保護者の皆様は「牛」に対してどのようなイメージをお持ちですか？インドでは「悟り」、仏教でも「神聖」なお使い、西洋でも「豊穰」や「力強さ」

の象徴とされます。またお乳のイメージから心理学でも「母性」や安定した「家庭」などを暗示します。占いなどで「牛」に分類されるときは、性格的に「慎重派」「忍耐強い」「マイペース」など、先を急がず目の前を確実に進めることで将来の成功につなげることのできる人とされることが多いようです。年男・年女が身近にいらっしゃる方、いかがでしょうか？当たっていますか？

図書館では、今年の干支にちなんで「牛」に関連した本をディスプレイコーナーに展示しています。廊下からもガラス越しにご覧になれるのでぜひお楽しみください。

新しい年が皆様にとって明るく楽しい年になりますように！そして一冊でも多く、新しい本との出会いがありますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞ、よろしくお祈りいたします。



ディスプレイコーナー

### 【頑張り！高3受験生】

図書館には、教学社が発行している大学・学部別の入試過去問題集、大学入試シリーズ、通称『赤本』を多数揃えています。2学期に入ると、多くの高校3年生が赤本を利用するために来館します。12月に入り、毎日放課後には、志望大学の『赤本』を求めて書架の前が生徒でいっぱいになります。ひとりでも多くの生徒に利用してもらうため、利用は館内に限って貸出は行っていません。真剣な眼差しで、もくもくと過去問を解く姿も多く見られます。今年はコロナ禍での受験となり、例年とは大きく異なる1年を過ごして、受験に挑むこととなります。一般受験の生徒は、1月16日の大学入学共通テストから、本格的に大学入試がスタートします。まずは体調を万全に整え、自分自身の子カラを全て出し切って、全員が志望する進路に進めることを願っています。



### 【参考書コーナーも充実しています！】

カウンター前には、教科ごとに書棚を分けて様々な参考書も取り揃えています。こちらは、貸出可能ですが、多くの生徒に利用してもらえるよう、貸出の延長はできません。人気の参考書も多く、受験生以外の生徒も活用してくれています。自分で購入する前に借りてみて、使いやすさを試す生徒もいるようです。

## 【黒柳徹子さんに学ぶ自粛生活の知恵】

黒柳徹子さんは、1953年にテレビ女優第一号としてデビューしてから70年近く第一線で活躍してきましたが、2020年はコロナ禍によって3月からテレビの収録がなくなって自粛生活を強いられました。その間、自宅から一步も外へ出ずに規則正しい生活をしていましたが、このさきどうなるだろう、と心配することはなかったと言います。それは自分が「健康」だからだと黒柳さんは語っています。

20代でスターになった黒柳さんは、ねたまれたり、すごい意地悪をされたりしたこともあったようですが、そのようなときは「悪意のある人には、なるだけ近寄らないようにする」ということで対応してきた、と言います。

黒柳さんが、伝説の歌謡番組「ザ・ベストテン」の司会をしていた時、制作側が、6位の歌手と、圏外にいた視聴率の取れる人気歌手の順位とを入れ替えようとしたことがあったのですが、それなら降りる、と黒柳さんは断固拒否したそうです。お金のためにはなんでもする、数字を操作してまで実績を挙げるといった考えは、きっと黒柳さんの「辞書」にはないのでしょう。

「わたしは、いつもきれいでいたい、心から、嘘をつかずに、いつでもどこでも」(黒柳徹子)

## 【バラは、写し鏡】

「写し鏡なんです、私にとってバラは」

そう語るのは、22歳の時に「ROSE LABO」を起業した田中綾華さんです。

「自分が一生懸命になって、知識や経験が豊富になればなるほど、バラは、ほんとうにきれいな花を咲かせてくれるので、すごくやりがいを感じますね」

過去に、育てていたバラを全滅させた苦い経験を持つ田中さんは、農業を理論的に学びながら農業経営スクールにも通って研鑽を積み、今では食用バラを使った化粧品や食品を商品化し、6次産業の若きエースとして注目を集めています。

その田中さんの愛読書が『青空のむこう』です。



## 【武蔵、自分の影法師に驚く】



江戸時代、天下無敵の剣豪と称された宮本武蔵も修行中に「写し鏡」を見ている。奈良の宝蔵院にある槍の道場に向かった武蔵は、境内の畑を鋤で耕している老僧から放たれるすさまじい殺気を感じ、思わず9尺も飛びのいていました。この老僧こそ、槍の名人と称えられた日観だったのです。日観は、ただただ畑を耕していただけなのですが、その無心の「鏡」に武蔵自身の殺気が映ったのでした。

その日観から「おん身が感じた殺気は、自分の影法師で、おん身は自分の影法師に驚いて飛びのいたのじゃ。おん身は強すぎる。もっと弱くならにやいかん」と諭された武蔵は、おのが未熟を恥じ、いっそう剣の修行に励んでいくのです。

「鏡」のように無心の相手には、善意をもって近づけば善意が映り、悪意をもって近づけば悪意が映るのでしょう。そして、それは、ほかならぬ自分自身の姿なのです。

西南戦争で果てた西郷隆盛は、賊軍の総大将のような汚名を着せられていますが、勝海舟だけは、その真意を汲みとって「濡れ衣を干そうともせず子どもらがなすがまにまに果てし君かな」という和歌を贈っています。

その隆盛も、明治維新の立役者の一人として江戸城の無血開城を実現した山岡鉄舟に「金もいらず、名もいらず、官位も命もいらぬ人は、始末に困るものなり」という最大の賛辞を寄せています。まさに「英雄、英雄を知る」といったところでしょうか。

「明鏡止水」という言葉があります。コロナ禍で混濁を極めた2020年でしたが、2021年は、お子様方の無心の「鏡」に楽しい景色がたくさん映りますように♪

